

2018年にインドネシアで発生した地震被害を対象とし、インドネシアの留学生と共に研究しましたが、本年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震の被害を見て、改めて自身の研究の必要性を痛感しました。学部生時代および大学院生時代の研鑽は、今後、発生が予想されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの被害を少しでも軽減できると考えています。

卒業後に自身の研究活動について振り返ってみると様々なことに挑戦したと思います。ここでは、特に記憶に残っていることを3つ紹介します。

1つ目は理転に向けた基本的な学力の会得です。私は高校時代、文系コースに所属していました。自身の研究は理系の要素が強いため、高校の科目から学び直しました。独学に加えて、研究室の指導教員である一井康二教授に授業外で勉強会に付き合っただき、研究を行える状態にまで至ることが出来ました。

2つ目は英語での研究活動です。留学生と研究活動を行う性質上、研究の進捗報告や相談などは基本的に英語で行われました。当時、日本語での専門用語の理解すらままならない私にとっては非常にハードでしたが、留学生の献身的なサポートもあり、なんとかついていくことが出来ました。

海外の大学との交流会の現地の研究について英語で発表する機会もいただくことが出来ました。

最後に他の研究室との共同研究です。大学院に進学するからにはとことん頑張りたいという思いから、所属している研究室以外の研究室の活動にも参加させていただきました。似たような研究についても研究室の方針からアプローチの方法が異なり、物事を様々な角度から見る事が出来るようになったと思います。また、修士論文とは関係のない研究で論文執筆にも取り組み、当時はがむしゃらに頑張っていました。今となっては大変いい経験になったと思います。後輩の皆さんには、自身の研究で大変だとは思いますが、自身のさらなる成長に繋がると思って異なる研究にも積極的に挑戦してほしいです。

以上のように、私の研究活動は様々なことに挑戦してきました。これらを経験し修了することが出来たのは、諸先生方をはじめ同期や先輩・後輩、家族のサポートあってのことだと思えます。本学で学びを深めれたことに誇りを持ち、今後社会に貢献できるようさらなる精進をしていく所存です。

博修士会からのお願い

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

特別協力金のご協力を頂きました会員の皆様にお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願い致します。1口1,000円、できれば2口以上でお願いいたします。

特別協力金納入者名簿 (五十音術、敬称略) (2023年4月1日～2024年3月31日)

天井 一夫	網本 浩幸	池田 勝彦	池町 健太郎	今村 隆	岩井 治夫
江川 承和	大倉 俊	岡 照二	岡本 哲和	緒方 正則	小幡 斉
笠原 俊幸	鎌田 啓貴	北嶋 弘一	北村 英子	北村 佳之	木下 雅信
木村 昌司	黒堀 健志	五藤 勝三	竿田 嗣夫	坂本 信雄	佐々木 保幸
笹倉 淳史	鹿田 幸治	篠塚 義弘	竹中 敏治	椿 信二	富岡 宣之
中橋 久史	中原 住雄	永尾 俊一	永見 雄彦	西出 治彦	羽間 弘
飛田 篤	平野 裕	藤井 昭三	藤田 大輔	松本 始	真部 和義
水野 一郎	明神 信夫	村中 徳明	山本 善章	山元 哲朗	横田 伸敬
若林 優哉	和田 葉子				